

せおと

岡崎市立常磐小学校
令和四年二月二日

福は内 鬼は外というものの

新型コロナウイルス感染症の第6波の中、常磐丸は進んでいまま辛い思いをしている仲間が、元気に戻ってきて、共に航海を再開できるまで、常磐丸を守っていくしかありません。自然には逆らわず、強く、正しく、すこやかに耐えていきましょう。

さて、一月三十日(日)滝山寺の節分会に行ってきました。昨年いただいたお札とだるまをお返しし、新しいものをいただきました。これからも一年、常磐小学校の大願成就を、滝山寺でご祈禱していただき、豆まきをしてきました。

月曜日の全校集会で、だるまの左目に目を入れました。みんなの願いが叶うといいです。

節分とは、季節の分かれ目のことを言います。旧暦では、一年の始まりは、立春からと

考えられていました。だから、新年(立春)を迎えるにあたって「けがれ」や「災い」を追い払う行事が行われていたというわけです。現在の暦では立春は、二月上旬となります。冬から春になるといっても、まだ寒い日があり、体調をくずしやすい時期です。こういう状況を、人々は邪気が入り込みやすいと考え、豆まきを



して無病息災を祈ったのではないかと思います。では、なぜ豆か。調べると諸説あるようですが、私なりに思いつくま理由を考えてみました。

- ・「まめに暮らせる」ようにという語呂合わせ。
- ・豆は、高タンパクで栄養豊富で体にいい。
- ・投げた後、床や地面に落ちても豆は拾い集めやすい。
- ・強く投げなくても「まく」くらいで、当たると痛い大きさ。
- ・豆には種類が、いろいろある。

こんなことを書き出していると、ふと「豆は、投げられる鬼にとつても、優しいのではないか」と思えました。これは「豆まき」「豆投げ」ではない」という言葉からも想像できます。根拠はありませんが、昔の人の鬼役に対する思いやりではないかと、勝手にほっこりとした気分になりました。

今年の節分は、二月三日(木)です。翌日の四日が立春ということになります。大きな波の中を進んでいる常磐丸ですが、立春には、この波を乗り切って、最後の港(令和三年度のまとめ)へと、舵を切る見通しがもてればと思います。

そこで、二月十七日・十八日に予定していた五年生の山の学習を、今年度は実施しないこととしました。理由は、山の学習への準備に必要な時間が十分ではないこと、今後の教育過程に必要な授業時間の確保をするためです。ご理解のほど、よろしくお願ひします。なお、現五年生の山の学習については、来年度に行えるように関係諸機関に相談し、計画を立てて参ります。



ハッピーも、だるまさんにお願ひしよう。……。
えっ、何をお願いしたかって？ それは、ヒ・ミ・ツ♡

